

本日の内容項目 《 公正, 公平, 社会正義 》 【A・B・C・D】(Oで囲む)

A: 主として自分自身に関すること

B: 主として人との関わりに関すること

C: 主として集団や社会との関わりに関すること

D: 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること

本日の主題名 《 だれとでも なかよく 》

【1】主題解釈: この主題を学ぶ意義を捉えよう。

(1) まず「内容項目」について、自分自身の捉えを書き出してみましょう。

		自分なりに考えて (自己理解)	他の先生方と話して (他者理解)
価値理解	① この内容項目の 大切さ ※それはなぜ大切なのでしょうか	誰とでも分け隔てなく、仲良くすることで、色々な角度から物事を捉えたり、思いやりの心を育んだりする。	人が社会の一員として集団で生活するためには、みんなが公正、公平な態度で接することが大事。
人間理解 (誰にでもある弱さ)	② この内容項目の 難しさ ※いつでもできますか。誰に対してもできますか。	自分の都合で行動したり、多数派の意見に流されたりしてしまう。	自分の都合や損得で人を鼻負してしまう。
人間理解 (弱さを越えてよりよく生きようとする強さ) 深まった価値理解 (新たな気づき)	③ それでもなおの大切さ ※難しさを越えて大切にしたいのはなぜでしょう。	どんな場面でも、誰に対しても公正、公平な態度で接することでよりよい人間関係を築くことに繋がる。	誰に対しても、どんな時でも公正、公平な態度で接することが大事。

(2) 学習指導要領を見てみましょう。

④ 学習指導要領の該当ページに書かれている「大切さ」や「難しさ」、「指導の要点」など。

社会正義は、人として行うべき道筋を社会に当てはめた考え方である。社会正義を実現するためには、その社会を構成する人々が真実を見極める社会的な認識能力を高め、思いやりの心などを育むようにすることが基本とならなければならない。集団や社会において公正、公平にすることは、私心にとらわれず誰にでも分け隔てなく接し、偏ったものの見方や考え方を避けるよう努めることである。しかし、このような社会正義の実現を妨げるものに人々の偏見や差別がある。人間は自分と異なる感じ方や考え方、多数ではない立場や意見などに対し偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっていると言われる。いじめの問題なども、このような人間の弱さが起因している場合が少なくない。

指導に当たっては、日常の指導において、公正、公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えさせるようにすることが大切である。また、偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正することが必要である。これらの指導を通して、児童が誰に対しても公正、公平に接することのよさを実感できるようにすることが大切である。

(3) 「本日の主題」に焦点化して考えてみましょう。

⑤ 本日の主題はなぜ、児童生徒にとって大切なのだと思いますか。

仲間に入れないことのつらさ、悲しさを理解し、誰とでも分け隔てなく、仲良くしようとする態度を養うため。

⑥ ⑤に照らして、本学級の児童生徒は、どのような実態にありますか。(できているところ、まだのところ)

本学級の児童は、明るく元気で友達と遊ぶことが好きな児童が多く、自分から友達を遊びに誘って休憩時間を過ごす姿がよく見られる。しかし、遊ぶメンバーは固定化しており、指導者がみんなで遊ぶことを促さなければ、自分と気の合う子と集まり、遊んでいることが多い。時には、「みんながそうしているから」と周りに流され、友達に不公平な態度をとることがあり、それが良くないことだと気がついていない。友達と仲良くするのはよいことで、仲間外れにするのはいけないことだというのは、どの児童も当たり前のこととして理解はしているが、行動に移すことには課題がある。

どんな指導の方法で授業するか、考えましょう。まず「教材」を見てみましょう。

【2】：教材のどこを用いて授業を作るのか、考えよう。

本日の教材名《 かずやくんの なみだ 》 小・中 第《1》学年 出版社・教科書名《 日本文教出版 》

⑦登場人物の役割を捉えよう（主題に照らして）

※主人公はどんなことに悩んでいますか。また他の人物は主人公にとってどのような位置にいますか。

主人公たちがしているおにごっこを遠くから見ているだけで、いつも一人でいるかずやくんのが気になっている。走るが遅く、すぐ鬼になってしまうかずやくんを誰も誘わない。ぼくも気づかないふりをしている。

さとしくんはぼくと並列の関係。

かずやくんは、みんなに仲間外れにされている。

⑧主人公の悩み・葛藤・迷いなどの「難しさ」の部分はどこでしょうか。また、「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったりする部分はどこでしょうか。

「みんなが誘わない」という集団意識により、ぼくもかずやくんを仲間外れにしている。

↓

みんなが誘わない中で、自分だけがかずやくんを仲間に入れようとするには、相当な勇気が必要。

↓

仲間外れにされているかずやくんの辛さや悲しさに気付き、さとしくんに「かずやくんもいれてあげようよ」と勇気ある行動に移すことができたことで、誰とでも分け隔てなく、接することのよさに気付くことができる。

【3】授業のねらいとゴールの姿、それを導く発問と板書を考えよう。

<p>⑨ねらい：「〇〇する活動を通して、〜〜しようとする道徳的な判断力（道徳的心情、実践意欲と態度）を高める」</p>	<p>ねらい：「かずやくんもいれてあげようよ」とはっきりと言った時の主人公の気持ちを考えることを通して、誰とでも分け隔てなく、仲良くしようとする態度を養う。</p>
<p>⑩ゴールの姿：⑨のねらいが達成されたとして、授業の最後には、例えばどのような言葉が児童生徒から出てくるとよいでしょう。複数考えてみましょう。</p>	<p>子供が自分の言葉で価値を再定義すると、例えば、 「みんなで遊んだほうが楽しい」 「一人ぼっちの友達がいないようにしたい」 「いれてあげようと言えるようになりたい」</p>
<p>⑪そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「悩みや葛藤など」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。</p>	<p>「どうして、ぼくは気づかないふりをしたのでしょうか。」 発問後、「そういう気持ち、分かるねえ」と共感を入れると、子供は安心する。</p>
<p>⑫そのゴールに向けた展開として、⑧で見た主人公の「難しさ」を越えてよりよく生きようと決心したり、明るい気持ちになったり」を捉えさせる発問はどのようなものが考えられますか。</p>	<p>「どうして今度はさとしくんに『かずやくんもいれてあげようよ』とはっきりと言えたのでしょうか。」 発問後、「なるほど、そういう考え方が大切なんだね」と共感すると、子供は今後の生き方にしっかり見通しを持つ。</p>

※上記をもとに、思考を促す発問計画、板書計画を作成していきましょう！

（令和4（2022）年度改訂版 宮里智恵作成を参照）